



九州大学高等研究院 SSP公開シンポジウムの開催について

概要

九州大学では文部科学省 科学技術振興調整費等により、平成 18 年度から「次世代研究スーパー aster 養成プログラム (SSP)」を実施しています。この度、科学技術振興調整費による本プログラムの最終年度となることから、SSP 5 年間の成果を広く社会に発信するため、公開シンポジウムを次のとおり開催いたします。

日 時：平成 23 年 2 月 24 日 (木) 12:30～17:00

場 所：アクロス福岡 国際会議場 (福岡市中央区天神 1-1-1)

タイトル：SSP 5 年間の成果 ～九大方式テニユア・トラック制による組織改革～

背景

九州大学では、文部科学省科学技術振興調整費 「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業に平成 18 年度に採択され、当該経費及び学内経費 (総長裁量経費) により、「次世代研究スーパー aster 養成プログラム (SSP)」の事業を推進しています。(H18～22 年度：5 年間)

本プログラムの開始に当たり、学内各部署から若手研究者養成・新領域開拓・組織改革を目指す研究プロジェクトを厳選しました。そして、これらのプロジェクト毎にテニユア・トラック制 (※) を前提として、国際公募により優秀な若手研究者 (次世代研究スーパー aster 養成プログラム (SSP) 学術研究員) を採用しました。SSP 学術研究員に対しては、本プログラム期間中、給与面での厚待遇や研究環境の整備及び養成期間終了後の准教授ポスト確保等の様々な支援を行い、自立して研究に専念できるよう環境を整えました。

本プログラム「九大モデル」の取組を通じて、テニユア・トラック制の定着を図り、学内各部署の組織面・意識面の改革を押し進め、教員流動化・新領域開拓を促進し、大学改革の推進や研究全体の活性化に寄与しています。また「九大モデル」の取組は各方面から高い評価を得ており、平成 20 年 10 月に実施されたプログラム中間評価では総合 A 評価を受けています。

また、本学では、平成 21 年 10 月に、ノーベル賞級の極めて高い研究業績を有する研究者や次世代を担う若手研究者が高度な研究活動とその成果の社会発信を行う場として、**高等研究院を創設**しました。これに伴い、SSP 学術研究員は、**特別准教授**として同研究院に所属することとなりました。特別准教授は同研究院において、卓越した業績を持つシニア研究者である名誉教授、特別主幹教授等との交流を通じて薫陶を受けるとともに、教育や研究成果発信の経験を積むことで、研究者としてのさらなる飛躍を遂げつつあります。

この度、科学技術振興調整費によるプログラムの最終年度となることから、本プログラムによる各研究プロジェクトの成果と、各 SSP 特別准教授による研究成果を広く他大学や社会全体に発信するため、公開シンポジウムを開催するものです。

(※) テニユア・トラック制：公正で透明性の高い選抜により採用された若手研究者が、審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付の雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組み

■内 容

12:30 S S P 特別准教授によるポスターセッション

13:00 開会

- ・ 文部科学省挨拶
- ・ 基調講演

13:35 ～ 16:50 S S P 研究プロジェクトの成果報告

- ・ 感性を切り口とした「心」の科学拠点の創成（人間環境学研究院）
- ・ 時空間階層生命科学（理学研究院）
- ・ 数学・数理科学における未解決問題挑戦プロジェクト（数理学研究院）
- ・ ヒト幹細胞システムの医学的応用への研究拠点の創出（医学研究院）
- ・ 超分子ナノデバイスフュージョンプロジェクト（工学研究院）
- ・ ヒューマンセンタードロボティクスプロジェクト（工学／システム情報科学研究院）
- ・ 社会情報基盤構築（システム情報科学研究院）
- ・ 食シグナルバイオロジーに支援された植物サイエンスの拠点形成（農学研究院）
- ・ 生体防御におけるポストゲノムサイエンス（生体防御医学研究所）

17:00 閉会

■効 果

本公開シンポジウムを通じて、各方面から高い評価を得ている、「**九大モデル**」による人材養成や新研究分野開拓に向けた組織改革の取組の成果を発信することで、他大学等においても「**九大モデル**」が展開され、テニユア・トラック制の定着にも繋がります。その効果がより広範に波及していけば、ひいては学界全体の活性化に貢献すると考えられます。

また、学内外から高い評価を得ている S S P 特別准教授の顕著な研究成果を積極的に社会に向けて発信することにより、当該研究成果が広く認知されるとともに学内外の研究者に刺激を与え、研究のさらなる活性化が期待できます。

■今後の展開

今後も引き続き、本プログラムによる研究成果等を社会に向けて積極的に情報発信する機会を設けるとともに、総長のリーダーシップの下で、取組自体もより一層発展させながら継続し、テニユア・トラック制度を定着させていきます。

科学技術振興調整費による事業終了後は、学内で責任を持って財政措置を行い、自然科学系だけでなく、人文社会系も含んだ全学問領域を対象として本プログラムを継続していきます。本プログラムへ参画する部局を新規に募り、新たな特別准教授の公募を行って本プログラムの実施規模を拡大することで、組織改革と新領域開拓を全学規模でさらに促進することを目指します。

【お問い合わせ】

学術研究推進部学術研究推進課 元村、川上、野田

電話：092-642-7267、7077

FAX：092-642-4317

Mail：gjgwakate@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学は2011年に100周年を迎えました



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の世紀を拓く

同志社大学生命科学
(理科学研究)



ヒト幹細胞システムの医学的応用への
研究拠点の創設(理科学研究)



医学・保健科学における先端技術開発
プロジェクト(理科学研究)



ヒューマンセンタードロボティクスプロジェクト
(工学/システム科学研究)



社会情報学連携
(システム科学研究)



生体情報学におけるポストゲノムサイエンス
(生体情報科学研究)



感覚を切り口とした「心」の科学拠点の創設
(人間科学研究)



超分子ナノデバイスフュージョンプロジェクト
(工学研究)



食シグナルバイオロジーに資する植物
サイエンスの拠点創設(理科学研究)

